

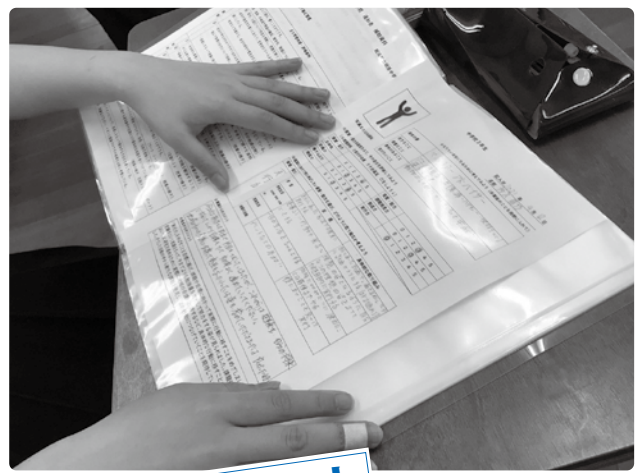
# 高校

## 生命地域学

飯南町をフィールドとしたキャリア教育で、1年生は地域医療学習、2年生は中山間地域体験学習などに取り組みます。3年1組の生徒は、高校3年間の集大成として半年間の「課題研究」に挑戦。課題研究では、これまでに得た経験や知識をもとに、主体的に地域課題を発見し、解決策を提案するだけでなく、実践により実行力・発信力を高めます。また、生徒同士でのグループ活動や地域・事業所の皆さんとの交流を通して協働する力も身に付けます。



課題研究は、小学校・中学校からの「ふるさと教育」の集大成でもある



## キャリアパスポート

児童生徒が自分の成長を確かめるための「記録簿」。 「ふるさと飯南町を誇りに思い、社会で役立つ学力を身に付け、前に一歩踏み出す力、協働する力」を育むために活用します。活用するのは、保育所の年長から高校卒業まで。児童生徒は、年度の初めに「この1年頑張ること」「伸ばしたい資質・能力」を決めます。そして、保育所や学校、家庭、地域で学んだことを記録。学校の先生や家庭の方からのコメントをもらい、次年度に持ち越します。

# 中学校

## ICT (情報通信技術) 教育

生徒1人に、端末1台を貸し出し、ICT教育を進めています。情報通信技術が発展し続ける時代を生きる子どもたちに、必要な資質・能力を養うこと。学校の学習と家庭の学習との境目をなくし、主体的な学びを実現することを目的としています。生徒は、授業の振り返りや課題の提出に活用。部活動でも、自分の体の動きを確認する際に活用しています。頓原中学校では、昨年臨時休業の際、リモート朝礼や授業動画の配信、課題や学校だよりの配布などに取り組みました。



「世界45の注目すべき事例(Google)」に選ばれる(頓原中)

## 中高交流

### 飯南ジョブフェア

町内の10社を超える企業・事業所などが集まり、業務内容や仕事の魅力を生徒に話す場。飯南町で働く皆さんから「仕事のやりがい」を聞き、「仕事を通じた地域貢献への想い」を知ることで、生徒の地域貢献意欲を育みます。「働くこと」を深く考えるきっかけにもなり、進路選択の際の参考になっています。令和元年度から、中高連携の取り組みの一つとして、中学生も参加。



# 第2章 切れ目のない保小中高一貫教育

## 地域の宝を育む飯南町の教育魅力化

# 小学校

## ふるさと教育

飯南町の自然や文化、歴史を調べ、人に伝える活動。3~4年生になると、川を調査します(神戸川:赤名・来島・志々、頓原川:頓原)。水質検査をしたり、川の生物を捕ったりして川の状態を把握。川の状態によって住む生物が違ってくることに気付くなど、意欲的に学ぶ姿が見られます。学校近くの川を調査することで、身近にある自然環境をきれいにするこや、ふるさとの環境資源に関心を持つこと、環境保全への意識を高めることを目的としています。



pH測定キットで水質をチェック

## 小中高交流

### ふるさとシンポジウム

児童生徒がふるさと飯南町を調べ、課題解決に向けて取り組んだ成果を発表する場です。小学生と中学生、高校生が世代を超えて交流。調査・研究、体験から導き出した意見や解決策を話し合うことで、「ふるさと飯南町を愛し、町民の一人として主体的・創造的にふるさとに貢献しようとする意欲」を育みます。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催。



# 保育所

## 自然体験活動

「森のおさんぽ」や「生き物かんさつ」など、月ごとにテーマを変更しながら、子どもたちに自然に触れる楽しさを伝えます。ふるさとの森や赤名湿地帯、散歩コースの田んぼ、園庭で虫や植物を観察。身近にある花で染め物をしたり、木の実で工作をしたりします。森の木々や生き物とのふれあいを通して五感を刺激し、豊かな感性を育みます。染め物づくりや工作では、色や模様、形を思い描く想像力を強化。友達や保育士と協力することで最後までやり遂げる力を身に付けます。



水辺の生き物かんさつ(さつき保育所)

## 保小交流

### 保育所訪問

小学生が保育所を訪問し、保育所の児童と交流を深めます。赤名小学校では、「ホットブックタイム」と題し、学年別に年1回訪問。絵本の読み聞かせをしたり、一緒に遊んだりしてふれあいます。小学生のほとんどが、自分の通っていた保育所に足を運ぶことで、自分の成長を実感。保育所の児童との交流を通して相手を思いやる気持ちを育んだり、人との関わり方を考えたりするきっかけになっています。

